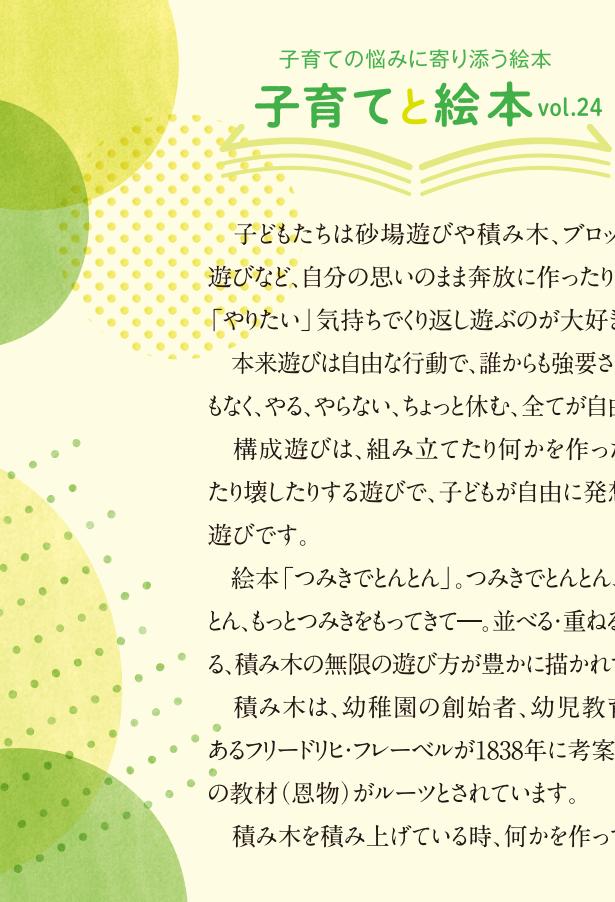


ミリカ 2023年6月号(6月8日発行)掲載



子育ての悩みに寄り添う絵本
子育てと絵本 vol.24

子どもたちは砂場遊びや積み木、ブロック、粘土遊びなど、自分の思いのまま奔放に作ったり壊したり、「やりたい」気持ちでくり返し遊ぶのが大好きです。

本来遊びは自由な行動で、誰からも強要されず制限もなく、やる、やらない、ちょっと休む、全てが自由なもの。

構成遊びは、組み立てたり何かを作ったりそろえたり壊したりする遊びで、子どもが自由に発想していく遊びです。

絵本「つみきでとんとん」。つみきでとんとん、かさねてとん、もっとつみきをもってきてー。並べる・重ねる・くっつける、積み木の無限の遊び方が豊かに描かれています。

積み木は、幼稚園の創始者、幼児教育の祖であるフリードリヒ・フレーベルが1838年に考案した一連の教材(恩物)がルーツとされています。

積み木を積み上げている時、何かを作っている時、

思うようにできた時、崩れた時、それぞれの感情や表情、体の動きに、見ている大人も一緒にワクワクドキドキ。

「すなばばば」。すなばで友だちとトンネルほり。かいづうした。『すなばんざーい!』。情景や気持ちの擬態語もユニークで、何だか気持ちが大らかに愉快になります。この砂遊びも恩物の20種類に含まれています。

砂は、遊び方が無限に広がる「究極に自由な遊び道具」だと言われています。砂の触感、加える水加減での変化。その変化を予測して確認し、そして次なる挑戦。想像したり創造したり科学的に発想したり。砂を介してさまざまな道具を操作できるようになります。砂の上の移動にもバランス感覚や筋力が必要です。そして砂には、子どもの体や動きをありのままに受け止めてくれる安心感もあり、活動的な遊びだけでなく、静かな遊びの居場所にもなります。

遊び その7 「構成遊び」

遊びは自発的なもので、自分の「やりたい」が見つけられ、「やりたい」ができること。

私たち大人は、遊び場の整備とともに、子どもの「やってみたい」ができる環境を整えていきたいものです。

今回ご紹介する絵本

	
つみきてとんとん 文 竹下 文子 絵 鈴木 まもる 金の星社	すなばばば 作・絵 鈴木 のりたけ PHP研究所

子育ちひろば「めぐみ」代表 弘田 恵子
1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。絵本講師(NPO法人「絵本で子育て」センター認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター